

施策評価シート（評価対象年度：令和元年度）

1. 基本的事項

① 施策名〔施策小〕	1 地域医療体制の充実	② 施策番号	4205
③ まちづくりの方向〔政策（章）〕	2 みんなが健やかで、みんなが助け合うまち		
④ 基本施策〔施策大（節）〕	2 すべての市民が生涯にわたって健康な生活を送れるまちをめざします		
⑤ 基本的方向〔施策中〕	1 医療環境の充実		
⑥ 担当部名	⑦ 担当課名		
健康福祉部	保健推進課		

2. 施策の現状把握

〔1〕施策の対象・意図

① 施策の対象（誰、何に対して施策を実施するのか）	泉佐野泉南医師会看護専門学校の看護師学生、並びに泉佐野泉南市医師会会員
② 意図（対象をどのような状態にしたいのか。何を狙っているのか）	地域医療に欠かせない医師の生涯学習及び看護職を養成し、地域医療の充実を図る。市民から信頼される質の高い看護を提供するために高度な専門知識・豊かな人間性を兼ね備えた看護職員を安定的・継続的に育成する。
③ 環境（この施策を取り巻く状況はどのような状態なのか、また、国や府の動きはどのような状態で、今後どのように変化していくと考えられるか）	泉州地域では、高度・専門医療機関の整備など、医療体制の整備を求められている。地元の医師・看護師の確保なくしては、地域医療の充実を図ることはできない。

〔2〕施策指標及び推移

施策指標（成果指標）		単位	指標とした理由・考え方
①	泉佐野泉南医師会看護専門学校 卒業生	人	卒業生は、地元の医療機関で就職し、地域医療の担い手として必要である。
	計算式		
②	泉佐野泉南医師会会員の研修会 参加者数	人	地域医療を支える医師の研修への参加者数は、地域医療体制の充実を図る。
	計算式		
③			
	計算式		

	指標名	単位		H29実績	H30実績	R1実績	R2見込	R3目標	備考
①	泉佐野泉南医師会看護専門学校卒業生	人	目標値	40	40	40	40	—	1学年定員：40名
			実績値	39	36	40	—	—	
			達成率	97.5%	90.0%	100.0%			
②	泉佐野泉南医師会会員の研修会参加者数	人	目標値	510	760	760	760	—	
			実績値	760	437	510	—	—	
			達成率	149.0%	57.5%	67.1%			
③			目標値						
			実績値						
			達成率						

〔3〕施策を構成する事務事業

	事務事業名	成果指標					総事業費（千円）			事務事業評価結果		重点化
		指標名	単位	H30実績	R1実績	R2見込	H30実績	R1実績	R2見込	総合評価	今後の方針	
1	泉南市献血推進協議会補助事業	献血者数	人	2,295	2,120	2,120	890	774	773	A	ア	◎
2	地域医療研究補助事業	研修会参加者数	人	437	510	510	830	826	826	A	ア	○
3	看護職養成運営補助事業	卒業生	人	36	40	40	1,579	1,575	1,575	A	ア	○
4												
5												
6												
7												
8												
計	3						3,299	3,175	3,174			

3. 施策の評価

評価の視点	説明・コメント等
①本施策の意図すること(目的)は、上位施策(施策中)の達成にどのように貢献しますか。 (施策所管課等としての考えをお示ください。)	少子化や高齢化の進展とそれに伴う疾病構造の変化により、医療に関するニーズが拡大していくことが考えられる。これを支える医療従事者の確保・資質向上は重要な課題である。泉州地域で働く看護職を養成すること、医師の生涯学習及び健康な献血の確保を図ることは、医療環境の充実に貢献する。
②本施策で設定した指標から何が読み取れますか。 (2[2]の表の数値の推移から分析できることをお示ください。)	泉州地域の看護専門学校で看護師を養成することにより、地元の医療機関に就職し、看護師不足の解消になる。
③本施策において市民、団体等との役割分担や市の関与は適切ですか。 (施策所管課等としての考え(理想と現実)をお示ください。)	公的医療機関のない本市において、医師会と連携・協力し、地域医療体制の推進を図ることは、市の重要な役割と認識する。
④施策を構成する事務事業は適正ですか。 (2[3]を踏まえ、施策目標に対し事務事業にずれはないか、数は適正かについて考えをお示ください。)	地域医療の担い手である、看護職や医師の研修等を支援することは、大切な事業である。また、献血の普及啓発を実施し、日々疾病等輸血を余儀なくされている人のために、安定的な血液の確保は必要であり、医療環境の充実につながる事業構成である。
⑤施策を構成する事務事業の中で重点化及び縮小化についてどのように考えますか。 (2[3]において、◎、○、▲とした理由をお示ください。)	今後地域包括ケアシステムの構築等、より地域医療連携の必要性が増大するなか、各事務事業とも地域医療体制を支えるためには必要な事業である。

4. 一次評価(所管課評価)

一次評価	評価(A～D)	課題等	A: 施策達成に向けた取組や展開などが大変評価できる
	B	住み慣れた自宅や地域での看取りの実施等、在宅医療の充実が求められるなか、今後も継続した支援が必要な施策である。	B: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われている C: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われているものの、改善の余地がある D: 施策達成に向けた取組や展開などが不十分であり、改善の余地が大いにある

5. 改革、改善案

即時的対応 (すぐに取り組む改善案)	緊急な課題等のある場合は、関係市町と協議する等必要に応じて対応し、今後も継続した支援を実施する。
短期的対応 (1、2年のうちに取り組む改善案)	今後、高齢化の更なる進展や医療提供体制の在宅医療へのシフト等により、看護師等の就業の場が変化していくと考えられる。看護師の確保及び資質向上に努めていく必要がある。
中長期的対応 (3～5年をめどに取り組む改善案)	税・社会保障一体改革における推計では、団塊世代が後期高齢となる令和7年には、看護職員が不足すると考えられる。今後、看護職員を着実に確保するため、本事業の継続的な支援が必要である。

6. 二次評価(行革・財産活用室評価)

二次評価	評価(A～D)	課題等	A: 施策達成に向けた取組や展開などが大変評価できる
	B	地域の看護専門学校への助成、地域医療研修への補助による取組が適切に実施されている。 引き続き地域医療体制の充実に向け、関係機関と連携し継続的支援を計画的に進められたい。	B: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われている C: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われているものの、改善の余地がある D: 施策達成に向けた取組や展開などが不十分であり、改善の余地が大いにある